

生活科のベストミックス

～「生活科で大切にしたい学び」と「ICTの効果的な活用」～

東濃教育事務所



ICTの特質を踏まえ、児童の発達の段階や特性および生活科の特質などに応じて、適切に活用するようにすることで、それまで以上に体験や表現活動の幅を広げ、学習を充実させていくことが期待されます。

《場面ごとのICT活用事例》

① 思いや願いをもつ場面

- ・前時の学習を振り返るとき、第1,2学年の児童は、過去の出来事を想起したり過去と現在を比較することが難しいので、写真等を残すことが有効。既習事項をはじめ、本時解決すべき問題などを確認し、学習意欲や学習の見通しにつなげることができます。
- ・同じ画面を共有し、本時の学習を確認できるので、全員が、学習の流れを視覚的に理解することができます。使用する資料や学習プリントの記入の仕方など、共通理解することができます。



② 活動する、体験する場面

- ◎観察、記録
- ・第1,2学年の児童にとっては、事象をタブレットに保存しておくことで、成長の変化を容易に比較でき、じっくり観察することができます。
- ・画像を拡大し、部分的に詳しく観察したり、全体像をとらえたりするなど、観察の着眼点によって(色、形、数、長さ、太さ、音)自在に操作し観察できます。
- ・活動を動画で撮っておくことで、改善点を見つけやすくし、試行錯誤する力を高めます。



③ 感じる、考える場面

- ・考えた視点ごとに画面に共有しておくことで、児童が自分と同じ考え(違う考え)の仲間を見付け、交流しやすくなります。
- ・個別に自分の生活についてまとめることができます。グラフを学習していなくても、数を入力すると視覚的に割合を確認することができます。
- ・タブレットに考えを整理したり仲間の意見を聞いたり撮影した活動の動画を見たりすることで、新たに気づいたり思考を再構築したりして考えを深めることができます。



④ 表現する、行為する場面

- ・活動(体験)してできたことや分かったことなどをタブレットにまとめ、仲間と共有することができます。
- ・まとめたことを画面を指し示しながら、説明することができるので、より相手に伝わりやすくなります。
- ・本時のまとめを書き記すことで、次の学習に生かしくなります。
- ・評価の形式(学習プリント等の枠)を配布し、児童が記入したものを一括して回収します。先生は、提出状況や内容を即時に見て取りつつ、見届けを丁寧に行うことができます。

